

麗澤瑞浪の 四季だより

第39号 2015年11月21日 発行
麗澤瑞浪中学・高等学校 自然科学部

この時期になると、身近なところでよくドングリを見かけます。ドングリのなる木は器具材、建築材、シイタケ^{ほだき}櫛木などに利用されます。植物の種類はいろいろなものから総合的に決めますが、ドングリ^{けんか}（堅果）の形やドングリの帽子^{かくと}（殻斗）によって簡単に種類が分かります。機会があったら、ドングリを集めてドングリで芸術作品を作ってみてはいかがでしょうか？

6. コナラ

通常は高さ15m直径40cm以下のものが多いですが、高さ25m、直径70cmに達するものもあります。葉柄の長さは1cmほどで柄のごく短いミズナラ



と区別する時のポイントになります。日当たりが良く、肥えた土地を好み、成長は早いです。樹勢が強く、伐採しても切り株から新芽を出すことから江戸時代後期より、薪や木炭として利用されてきました。ドングリは長楕円形で緑色から褐色に色づきます。帽子は皿のように浅く、表面は^{うろこじょう}鱗状になっています。この学園内でもささやきの小道などにたくさん生えています。

8. アベマキ

樹皮は灰黒色や灰褐色があります。また、コルク層が発達していて、厚く深い縦の割れ目が凹凸になり「あばたまき」と呼ばれていたのが名前の由来です。ドングリは直径2センチ弱の球状で、開花から翌年の秋に熟します。1年目はほとんど成長せず2年目の夏から急に大きくなります。また、帽子の大きさは直径3センチほどで、形が細長く堅いヒゲ状になっているのが特徴で



す。ささやきの小道で見られます。皆さんも是非アベマキを見てくださいね。(田中な)

9. アラカシ

名前の由来は、「アラ」は同じように身近な存在であったシラカシに対比して僅かに粗野であるということからきており、「カシ」は木材にしたときに堅いことから「堅（かたし）」から転訛したと言う説があります。しばしば、「葉が硬く粗い感じがする」などと表現されますが、シラカシとよく似ていて見た目ではほとんど変わらず、特に粗野な印象はありません。見分けるポイントは帽子に数本の輪があり、ほかのものに比べて実が帽子に余り深くは入っていないという所です。(水野)



10. シラカシ

葉は、狭長楕円形で両端は鋭三角形状です。長さは10cm前後、幅は3~4cmほどです。葉の上部3分の2以上に細かく鋭い鋸歯（葉の縁のギザギザ）があります。シラカシのドングリは、ちょっと背の高い楕円形で、先端部に一段の段差があります。そして、帽子の部分に横縞が6~8個並んでいるのが特徴です。



シラカシは、材がアカカシに比べて淡い色のため、そして、葉の裏が白っぽいところからこの名がつけました。また、樹皮の色が黒っぽいことから、クロカシとも呼ばれています。(高森)



参考文献・URL

[Science Window秋号\(2015 10~12\)](#)

www.geocities.jp/tama9midorijii/ptop/shiijip/shirakashi.html

<http://zasshonokuma.web.fc2.com/gyo/a/abemaki/abemaki.html>

<http://www.geocities.jp/tama9midorijii/ptop/ap/arakashi.html>

原色樹木図鑑 福田源次郎 北隆館

注：植物名の前に記載した数字は、『麗澤瑞浪の樹木図鑑』の樹木ナンバー。『新』と書いてあるものは、新たに紹介する植物。